

学位論文の要約

氏名	塩見 浩介
論文題目	コスト低減を志向する部品共通化技術における 試作費コントロールプロセス
<p>論文の要旨</p> <p>本論文では、コスト低減を志向する部品共通化技術において影響を受ける重要なコスト費目は試作費である事を理論的に推測し、実際の部品共通化技術における試作費コントロールプロセスについて考察を行なっている。</p> <p>序章</p> <p>本論文における問題意識、研究対象の範囲、研究概要並びに関連する先行研究について述べている。</p> <p>第I部 会計的視点による部品共通化プロセス分析</p> <p>第I部では、部品共通化によるコスト低減プロセスを分析する為に、部品共通化の基本的な考え方と先行研究、並びに会計的視点として関連すると考えられる管理会計チェンジについて説明を行なっている。</p> <p>第1章 部品共通化に関する基本的な概念と理論</p> <p>本論文における部品共通化に関する基本的な概念と理論について述べている。</p> <p>第2章 自動車産業における部品共通化によるコスト低減の研究</p> <p>部品共通化によるコスト低減に関する先行研究と、部品共通化による製造原価低減の成立条件と問題点について述べている。</p> <p>第3章 管理会計実務における研究と管理会計チェンジ研究の現状</p> <p>実務分野への貢献が期待される研究分野である為、管理会計実務におけるケーススタディ研究と実務に関する理論研究、並びに管理会計システムの経時的変化を取り扱う管理会計チェンジ研究の現状と概要について述べている。</p> <p>第4章 部品共通化によるコスト低減プロセスの会計的視点による分析</p> <p>部品共通化によるコスト低減プロセスについて、会計的視点である制度化プロセス図による、部品共通化の経時的変化における分析を行なっている。結論として、部品共通化によってコントロールされる重要なコスト費目は試作費である事を推測している。</p>	

第II部 部品共通化による試作費コントロール効果

第II部では、第I部の考察結果について、実際の部品共通化技術3種類の部品共通化プロセスにおける試作費コントロールプロセスの特長について説明と考察を行なっている。

第5章 Modular Designにおける部品共通化プロセス

部品共通化目標を競合他社に対するベンチマーキングを基に設定し、DSMによって部品種類数を把握する為に、設計部品図管理に優れるModular Designの部品共通化プロセスについて説明を行なっている。

第6章 Variety Reduction Programにおける部品共通化プロセス

部品は生産工程にぶら下がるものとして捉え、部品種類数管理と生産工程種類数管理を併用して部品共通化を考えるVariety Reduction Programについて説明を行なっている。

第7章 Typen und Teileにおける部品共通化プロセス

部品種類数だけではなく、間接業務も含めてコントという基準値を使用して捉え、コント当たりコストという基準を用いて部品共通化を実施するTuTについて述べている。

第8章 部品共通化プロセスにおける試作費コントロール効果の考察

3種類の実際の部品共通化技術における試作費コントロール効果について述べた上で、これまでの部品共通化効果の誤解と正常効果について考察を行ない、コスト低減を志向する部品共通化の本質について述べている。

終章

部品共通化による試作費コントロールの意義と可能性について考察し、部品共通化における試作費コントロールの要点と本論文の結論について述べている。